

# 南の風

令和3年2月25日

No.45



〒851-0245 TEL095-836-0085

長崎市千々町513番地

長崎市立南小中学校長

岡田 政宏

## 学校教育目標

自ら学び鍛え、励まし合う、心豊かな児童・生徒の育成

## 中学校教職員から

### お礼とお別れのメッセージ

中学校が四月から休校。必然的に教頭をはじめとする中学校籍の教師が全員異動します。他にも異動対象の職員がいることから、今春は、メンバーが大きく入れ替わります。そこで、少し早い職員メッセージです。



教頭

平成30年3月28日。初めて、本校を訪れました。その日は晴天で、学校の階段を上がりながら、美しい景色に見とれたのを覚えています。早いもので、あれから3年。南での3年間は本当に幸せて、充実した日々でした。これは何より、素直で笑顔の素敵な子どもたち、何事も協力を惜しまず、学校を支えてくださる保護者の皆様と地域の方々のおかげです。本校の学校像に「地域と共に歩む学校」とあります。今年度はコロナの影響で、子どもたちの様子を見ていただく機会は減りました。

だが、何かあれば、学校の思いにご支援・ご協力をお願いできました。また、「地域と共に愛情をもって子どもたちを育てていた」という学校であること、確信しています。私にとって、南は大切な場所であり、第二の故郷です。機会があれば、ぜひ立ち寄りさせていただきます。これまで出会ったすべての方々に心から感謝し、お別れとお礼の挨拶といたします。これからもお元氣でお過ごしください。



本校に赴任して3年。あっとい間に時間が過ぎ去りました。3年前新入生だった生徒も3年生。自分の希望した高校に合格し、15の春を迎え

てくれることとなり嬉しい限りです。今まで、小中併設の学校に2校勤務しましたが、小学校4年生以下の児童の指導をしたのは本校が初めてでした。成長段階に合わせた指導が難しかったのですが、できなかったことができるようになっていく子どもたちの姿に、体育教師としてのやりがいを感じていました。また、本年度の授業では、「子どもたちはできないのではなく、体の動かし方が身に付いていないのだ」という考えから、体づくりの運動を工夫しながら取り組みました。その成果が表れるのを楽しみにしています。この3年間、保護者の皆様や地域の皆様のご協力のおかげで、運動会など素晴らしい取組ができました。3年間お世話になりました。皆様もお体に気を付けられて、元氣にお過ごしください。



55年前に私の父が初任者として赴任した学校・・・そんな不思議な縁を感じながら南小中学校に着任したのが、ついこの前のようですが、早1年が過ぎようとしています。この1年間、明るく素直で前向きな本校の子ども

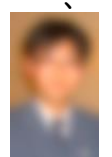


楽しい雪合戦(2月18日の昼休み)

たちと共に、とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。その中で、生徒2名の学級経営、小学校理科の指導、Zoom(ズーム)を使ったオンライン授業、日吉中学校との合同道徳授業など、本校だからこそ取り組むことができた実践が多くありました。これらの実践は、私に今までは違うものの方や考え方を示唆してくれました。今後の私の教職生活において大きな財産になると確信しています。これまでお世話になった保護者の皆様、地域の皆様から感謝申し上げます。4月から本校に勤務できないことはとても残念ですが、これからも南小中学校を応援しています。1年間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。

## ケセラセラ

2月20日、父親の納骨を行いました。母親が亡くなった時に作ったお墓も30年以上たち、文字や模様の金色がはがれていたため、材料と道具をそろえ、納骨前に日曜大工で補修しました。手前味噌ですが、金色部分は完璧に復活しました。ところで、墓石文字等に金箔を入れているお墓は、九州、特に長崎に多いということをご存じでしたか。霊を送るために、金貨等を燃やす中国の風習から、お墓の文字を金色にするようになったと言われています。また、長崎のお墓では、隣に「土神」が祀られています。これも、中国の「土地の神様」です。土地により風習が異なり、関東では黒色、関西では白色の墓石文字のお墓が多いそうです。長崎では、お盆にお墓で花火や爆竹をするというのを、父の故郷の福島県の親戚に話した時は、とても驚かれました。当たり前のように行っていることに、実は理由があったり、他の人から見たら当たり前でなかったり。しみじみと感じながら、



合掌

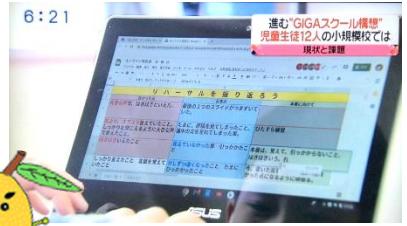
茂木小との交流リハールを放映。本番の交流は、次号で詳しく紹介します。



小規模校の良さを生かした取組



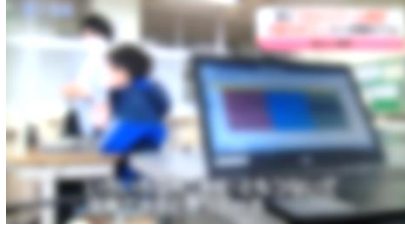
より意識的な子どもたちの姿



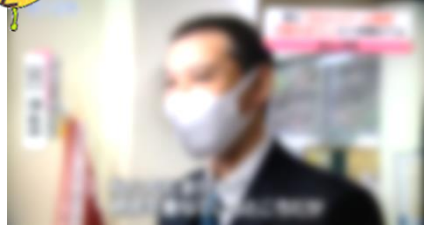
思考を可視化して、より深く



効率的に授業を進められる



より主体的・対話的な授業に



より効果的に使えるように

これまで中学生を中心に実施してきた薬物乱用防止教室。今年度は、小学校高学年で実施しました。ユニークな指導で定評のあるライオンズクラブ国際協会「長崎出島クラブ」。養護担当の職員(蔭山)が、お願いしたところ、ボランティアで実施いただけることになりました。

## ダメ、ゼツタイ 薬物の危険性、学ぶ



当日は、9名の皆さんにおいていただき、まず「なぜ、薬物乱用はいけないのか」について、タバコの弊害を例に説明を進めながら、薬物の「依存性」と「耐性」について、わかりやすく講義していただきました。その後、「覚せい剤」「シンナー」「大麻」「MDMA」といった薬物の危険性を具体的に教えていただきました。一見、お菓子のようなかわいい容器や包装に包まれている危険ドラッグ。甘い言葉で私たちの身近に忍び寄っています。「これの、断り方について、メンバーの皆さんの寸劇によって、子どもたちにもわかりやすく、インパクトをもって印象付けられたと思います。」

薬物乱用は「ダメ!!ゼツタイ!!」



先日、校内を巡視していたら、何やら雅(みやび)な音色が響いていたので行ってみると、子どもたちが音楽の時間に、お琴の演奏をしていました。曲は名曲「わづらひわづらひ」です。あまり難しい指の動きがないので、はじめてお琴を演奏して音色を楽しむには最適な曲と言えるでしょう。担当している日吉中の塚原航太先生によると、初級編ができた児童には、上級編を準備しているのだとか。

学習指導要領では、国際社会に生きる日本人として、日本の伝統音楽などに対する正しい理解をもつことが極めて重要とされています。世界中の多くの国々の文化を尊重する態度を養うためにも、自国の文化に愛着をもつことができるようになってほしいと考えています。

幸せな気持ちで子どもたちの演奏を聴いていて、四月の入学式の出し物としてどうだろうと思いつきました。実現できるかどうか、今から職員と相談します。

